

備前市事務事業評価表

(平成17年度事業)

事務事業名	治山事業（備前）		コード	04-01-02-05	担当課係	農林振興課 耕地治山係
事業実施期間			担当者	若本英幸		
総合計画 事業（政策）体系	大項目	もてなしの心とたくましさのあるまちづくり				
	中項目	豊かな食を支えるまちづくり				
	小項目	林業				
	施策	治山事業の推進				

事業について	
目的	森林の維持造成を通じて、山地に起因する災害から市民の生命・財産を保全し、また、水源かん養、生活環境の保全・形成等を図る
対象（誰のために）	森林所有者、山地近隣住民
内容	森林の整備

事業の結果	17年度		
実施項目	回数など（単位）	回数など（単位）	回数など（単位）
修繕	5箇所		

事業費 (単位：千円)	事業費		財源		事業費		財源	
	直接事業費	498	国庫補助金等		直接事業費		国庫補助金等	
	人件費	715	受益者負担		人件費		受益者負担	
	合計	1,213	一般財源等	1,213	合計	0	一般財源等	0

必要人員	0.10	人
結果指標名	修繕	
結果指標量	5	
単位	箇所	
対前年比	—	
事業費	1,213,000	円
単位当たりコスト①	242,600	円

結果指標名	修繕	
結果指標量	5	
単位	箇所	
対前年比	—	
事業費		円
単位当たりコスト②		円

事業の成果	17年度		
成果指標名	年度内完成率	式又は説明	年度内完成箇所数÷年度計画箇所数
成果指標量	0		
対前年比	—		
到達目標値	100	到達目標年度	各年度ごと

事務事業の評価		課題認識
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	近年の台風・集中豪雨等により、治山事業への重要性が高まっていることから、市民のニーズに答えるため、今後も引き続き工事及び修繕を継続していく必要がある。
	対象の妥当性	
	市民ニーズの妥当性	
効率性の評価	コストの効率化	事業の実施に際しては、引き続き実施箇所の確認、見直しを行い、最適な手段を検討し、コスト削減に努める。
	手段の最適化	
有効性の評価	職場の効率化	平成15・16年に発生した台風による災害復旧事業に時間を要し、本事業の実施が困難な状況であったため、修繕のみの実施となった。計画箇所の実施については、予算の繰越を行い次年度に実施する。
	目的達成度	
	成果向上の可能性	
市民参画度		

総合評価	コメント	評価区分
	本年度は修繕のみの実施であったが、近年の台風・集中豪雨等により、治山事業の重要性が高まっていることから、今後も事業の実施に当たっては、実施箇所の確認・選定を行い、工事及び修繕を継続して行ってほしい。	<A~E> C

今後の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する <input type="checkbox"/> 完了・統合		
翌年度結果指標量①	5	結果指標量②	
目標値	結果指標量	100	

改善事項	評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
効率性		事業実施時に現場の確認、工法等の検討を行う。	事業実施時	コスト削減

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。